

アボット製品の取り扱い終了を決定

2025年9月、アボットメディカルジャパン合同会社との販売協力に関するパートナーシップ契約につきまして、2026年12月末までの契約期間の満了後、契約を更新しないことを両社合意のもと決定しました。日本光電は、これまで38年に亘り、アボット製品の日本市場への導入、販売、アフターサービスに努めてきました。2030年の長期ビジョンの実現に向けた「グローバルな高付加価値企業への変革」の一環で事業ポートフォリオの見直しを進める中、当社におけるアボット製品の収益性低下が課題であったことから、今回の決定に至りました。2025年10月1日から2026年12月31日までの間、当社が販売、アフターサービスを担当しているお客様向けの業務をアボット社に順次引き継ぎ、同日をもってすべてのアボット製品の取り扱いを終了する予定です。

これに伴い、アボット事業に従事する社員への「転職支援プログラム」に加え、国内における一定の年齢以上の社員を対象とした「ネクストキャリア支援プログラム」を2025年12月から実施し、合計152名が本プログラムを利用しました。

今後は、自社の製品・消耗品・サービスの提供に一層注力し、特に人工呼吸器やDHSなど成長領域における販売体制を重点的に強化することで、中長期的な国内事業の成長を目指します。



電極カテーテル



アブレーションカテーテル



心臓ペースメーカ

ドウウェル（株）を連結子会社化

2026年2月、日本光電はドウウェル（株）の株式を取得し連結子会社化しました。当社は、2030年に向けた長期ビジョン「BEACON 2030」において、「グローバルな医療課題の解決で、人と医療のより良い未来を創造する」ことを目指しています。2030年に向けた価値共創の羅針盤で「新たな価値創造～医療現場のデータから価値を生み出す～」ことを掲げ、情報から価値を生むためのデータ統合プラットフォームの構築とアルゴリズム開発に取り組んでいます。また、長年に亘り、周術期や検査室向けの業務支援システムを開発・販売し、日本市場において高い評価とシェアを獲得しています。

ドウウェル（株）は、1996年の設立以来、医療現場に深く根差し、医師や看護師など医療従事者を支援するITシステムの開発・販売を行っています。これらの取り組みにより、先進的なITシステムを運用する日本の手術室をサポートし、高い評価を得ています。ドウウェル（株）のITシステム製品と当社のソリューション事業（ITS + DHS）※には高い親和性があり、両社の強みを融合することが、医療現場における新たな価値創造につながると期待しています。

日本光電とドウウェル（株）は、医療現場におけるデータ活用的高度化と業務効率化に資するITソリューションの提供により、医療の質および医療経済性の向上に貢献していきます。両社が長年培ってきた独自技術と知見に最先端の技術を融合することで、次世代の周術期ソリューションを創出し、持続的な企業価値の向上および医療課題と社会課題の解決を目指します。

※ ITS: ITソリューション、DHS: デジタルヘルスソリューション。

